図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

未来を変える80人

著者名	シルヴァン・ダルニルマチュー・ルルー	発行年	2006年
出版社名	日経BP社	ページ数	281ページ
値段	1,600円	ISBN	4-822245313
コメント	気のあった２人組が寝袋かかえて地球一周、社会起業家さんに片っ端から突撃取材、という趣向です。 まるでTV番組みたい？ご名答！ツッコミは浅いけど、ぱらぱらとながら視聴するだけで、いろんなトライアルのサワリに立ち会える気軽さがお得です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Mikey ☆☆☆☆	とりあえず、ユヌスさんのとこだけ読んでみた。 やっぱりあの人はスゴイ！			
	1-50	50P (30分)		2010/02/14 22:06:41
アメフト4号 ☆☆☆	世界の企業家のダイジェストみたいな広く浅い感じです。 いろいろな考えを吸収できた。			
	1-80	80P (45分)		2010/02/12 17:31:33
あ、あめふと２号 ☆☆☆	金儲けのためだけではなく、社会のためになることを仕事にすることの魅力が書いてあり、こういう仕事もあるのかとしみじみ感じた。			
	1-50	50P (30分)		2010/02/11 18:25:07
アメフト３号 ☆☆☆☆	社会責任投資家という、一見相反するようなことを仕事にしているファンドの社長のお話。 誰しもがこんなにうまくいくとは思わないが、まぁこんなすごい人もいるのか、と思った。			
	208-214	7P (10分)	特になし	2010/02/11 00:11:59
thjam ☆☆☆	社会企業家の考えを知ることができた			
	全部	281P (120分)		2010/02/09 17:56:42

名無し ☆☆☆☆	未来を変えるなんて何を大げさなと思ったが、実際社会の問題に対して考え、提案・実践し成功している人がこんなにいるのか…と感じた。読みやすかった。でも、考え方とか読んでみて、未来を変える人ってやっぱ凡人とは違うなと思った。			
	1-100	100P (90分)	1-100	2010/02/04 03:13:19

ＭＩＡ！ ☆☆☆☆	エコホテルとファストフード式白内障手術が印象的でした。 世界を変えるを仕事にするも同様に、こんなにも世界を自分とは違った角度から捉え、どのように向上するかアイディアを生み出し実行する人がたくさんいると思うと勇気付けられました。 社工から(私も含めて)たくさんこういう人が出てくれるといいな。			
	1-98、145-163	106P (50分)		2010/01/27 23:54:02

puzdog ☆☆☆☆	非難の声をあげるのは簡単だ。しかしそれの解決策を提案し自分で実行して示すことはなんと難しいことか。成果が出て周囲が認めるのには時間がかかる。それでも自分の信念を貫き、最後まで自分が問題解決の手本となる。かっこよすぎる。非難ばかりしているどっかの政治家に読ませてやりたい。 この本はいろいろな本と結びついている。いままで多くの本を読んだから気づいたのかもしれない。 「本書の８０人が成功したのも、任天堂が成功したのも、駒崎さんが成功したのもすべては信念と行動力があったからで、その信念はsimple。塩素溶材はコミュニケーションデザインの「傘がほしい」の例と同様、新たな視点の発見のいい例である。本書で挙げられた企業のほとんどはシステムとしてのソリューションを提案している。」 全部で５冊の本との関連を指摘したがどれだかわかるだろうか。２０冊記念の謎かけ（？）である。 最後に未来に希望を抱かせた８０人と、それをまとめ上げた２人に感謝したい。			
	1-100	100P (80分)		2009/12/31 18:32:59

gpx ☆☆☆☆☆	特に気に入った人はムハマド・ユヌスでした。何度もユヌスについては聞いたことがあるのですが、やっぱり参考にしたいなと思いました。 「社会問題を発見し、それを解決する」ということを実践している８０人は社会工学科学生必見だと思います。			
	1-144	144P (150分)	105-112	2009/12/22 03:27:14

PO ☆☆☆☆	将来仕事頑張る気になりました。			
	全部	281P (120分)		2009/12/07 23:57:16

ぶるー ☆☆☆☆	インドの目医者さんの話にほんとに感動しました。 うーん、こうゆう仕事もおもしろそう。 未来の選択肢が広がった気がします。			
	P12-72,P82-90	68P (120分)	P82-90	2009/11/10 22:36:25

ソロコフ ☆☆☆☆	偉人達を広く浅く知るのに良いと思います。一人一人がどんな課題をどんな既成概念をぶち破って解決したのかが明確なので専門知がなくても読みやすい。			
	1-72ページ	72P (70分)	68-72ページ	2009/10/18 22:33:22

hana ☆☆☆☆	たくさんのがんばっている人たちに出会えました。人道的Ｔシャツメーカーのドヴ・チャーニーなど、信念だけでなく、それを事業として成功させている人たちが多いことに驚きます。 一つ一つの情報はちょっと浅めですが、その分つまみぐいしやすいと思います。 元気をもらえます。そして、未来に希望が持てます。			
	1-23,73-80,139-193			

	ページ	86P (70分)		2009/10/13 09:51:48

ざわ ☆☆☆☆	世界にはすごい人がいっぱいいるんだなぁとつくづく感じました。ここで紹介された人の実行力と前向きに取り組む姿勢に少しでも自分も学んでいきたいです。			
	全部	281P (300分)		2009/10/13 08:22:27

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

いつか、すべての子供たちに

著者名	ウェンディ・コップ	発行年	2009年
出版社名	英治出版	ページ数	261ページ
値段	1,600円	ISBN	4-862760500
コメント	若いから無力だ。 21歳のウェンディもそうだった。ただウェンディが他の大学生と違っていたのは、めちゃめちゃ自信家でタフだったこと。 Teach for America――新卒の大学生を2年期限で底辺校の教師に送り込むプランを考えてみた。そのことで教育格差を埋めるの。はじめは小規模で？ ダメ。一挙に500名。大攻勢をかけて全アメリカにムーブメントを起こすんだ。 ほんとにムーブメントを巻き起こし、そのトップを走りに走り抜いた、これは戦いの記録。どの瞬間も「資金」という酸素を求めてあえぐ苦しみに満ちている。 まずはなかほどのカラーページで現場の熱気を体内にチャージしてから戦いのリングへどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
黒鳥 ☆☆☆	ちょっと読んで、みんなのコメントみてみよー って低っ！！！！ 評価の低さに唖然。確かにあんま先を読もうと思うような本ではないですね。 それでもちょっと考えるところがあったな・・・ 若者は無力。 先生のコメントにもあったけれど、でも動き出したときに周りが一緒になって動き始めるところ。 やっぱアメリカは違うかな って思いました。日本とは決定的に違う。失敗を恐れない姿勢？？ 本の内容とは違うところで発見があるってすごい不思議。。 おれ頭使ってるぞ（笑			
	7-48	42P (30分)	ど頭	2010/02/12 23:23:05
jessy ☆☆☆	「非営利団体」について他の授業で学んいたが大まかにしか学んでいない。 この本は１つのTFAという団体にしぼって書いてあるので細かく知れるかなと思って読んでみたくなった。 すごくユニークな考え方を持ってるね。普通そんなこと思いつかないっしょ。 でも、本自体は「記録」って感じであまり読者に「教養」を与えないなあ。			
	1-150	150P (80分)		2010/01/28 10:44:26
TD ☆	面白くなかった。苦労体験がつらつらと書かれているだけ。解決したいきさつが非常に簡潔にまとめられてしまっていて、そこが一番知りたいんだよ！と肩透かしを食らった気分になる本。読後は、ただ作者が一人で暴走したという印象しかのこっていない。			

	全部	261P (150分)	特になし	2010/01/01 13:55:09

フィクサー ☆☆☆	読んでいて全然つまらなくない、むしろ面白いんだけども、どうも自分と合わないのか読み進める事ができなくて、途中で断念しました。 ぱらぱらとページをめくると「お金が足らない」「資金」「破綻」といった言葉が本当にたくさん出てきていて、彼女たちがいかに苦労したのかがわかりました。 印象に残った文で次のものがあります。「そして当時は、実現できない理由を見出すだけの経験が、私にはなかった。」。自分の考えが世間では普通でない事とわかっていても、自分の考えのコンセプトが確固としていたら絶対に揺るがないで、今の世間の常識が本当は非常識なんだとばかりに若さからの勢いで突き進める人が大成するんだなあと強く感じました。			
	7-54、266-273ページ	56P (100分)		2009/10/20 13:05:56

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

国をつくるという仕事

著者名	西水美恵子	発行年	2009年
出版社名	英治出版	ページ数	297ページ
値段	1,800円	ISBN	4-862760548
コメント	よく怒り、よく泣く。それがマダム・ミエコの推進力かも。 途上国を支援する世界銀行という仕事。電線に流れている電力まで二大政党が分捕り合戦している（インド235-236ページ）など、生半可な正義感では太刀打ちできない、絡まりもつれた現状に、それでも「何が正しいか」だけを武器に敢然と立ち向かう勇姿がすがすがしい。 いやそんなごリッパなお話はどうもね、というかたには、274ページ、伝統衣装外交のエピソードだけでも。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
TD ☆☆☆	雲竜王がかっこよかった。 王様って頭悪いか性格悪いかのどちらかだと思っていたが、この世にはこんな素敵な王様もいるのですね。			
	58-75 3-17	31P (30分)	58-75	2010/02/01 22:36:03
あ、あめふと２号 ☆☆☆☆	西水さんの文章を読んで、淡々としているがそこから色々なことが読み取れて、そういう言葉にリーダーシップを感じた。 ネパールには行った事があるが、いつかブータンにも行ってみたいと思った。			
	1-129	129P (70分)		2010/01/24 06:26:25
アメフト３号 ☆☆☆☆	ブータンの雷龍王3世、4世の人間的な凄さがこれを読んだだけで窺える。自ら君主制を崩して、民主制を取り入れていくという構造改革をやり、常に全国民のことを考えているブータンの王に、ただただ感銘を受ける。			
	58 - 74	17P (15分)	58 - 74	2010/01/20 11:10:18
えむぼま ☆☆☆	国をつくるという仕事というタイトルを見てこの本を選んだが、アジアの国々の指導者の話が繰り返されているだけであったので少し飽きてしまった。 しかし、いままでブータンやネパールなどのアジアの国々にふれる機会がなかったのでそのような国々の素晴らしさや底力のようなものを感じさせられた。			
	全部	297P (400分)	17-28	2010/01/11 23:20:55

blue ☆☆☆	我が母校の大大大先輩、誇らしさ通り越して、ただあこがれます。しかし、残念ながらあまり感動できなかったのが正直な感想。 というのも、まずどういった読者層に読んでほしかったのか。もし彼女の仕事がどれだけ貧困の国に貢献しているのか書くのであれば、世銀としての業務をもう少し詳しく書くべきではないだろうか。多くの人に読むことを意図したのかわからないが、国の首相との会話や市民とのコミュニケーションの記述が多くて（もちろんそれは大切なことだが）、かえって、大変さが実際より伝わってこない。文章も章ごとのフレーズが感傷に浸りすぎかも？ また、編集が下手だと思う。時系列にしたのだとは思うが、どうせなら大々的に国を取り上げて長ページでその国の変化を追った方がおもしろかったのではないかと思う。 しかし、人の声というものがどれだけ形にできるかという点で彼女の節々の発言や行動には素直に感動しました。			
	1-249	249P (200分)	29-45	2009/11/13 02:15:50

ムーディーかまやつ ☆☆☆	前書きが熱い。とにかく熱いので気を抜いているとどこか遠くの国へ旅に出てしまうかもしれない。 まぁしかし熱すぎるので一気に読めるような本ではありません。本編は結構単調だし、刺激に慣れたら楽しめない類のモノなので暇なときに一篇ずつ読むのが良かろうと思います。前書きを気に入ったら自分で買えばいいでしょう。 本編がそんなにいいとは思えないけれど、前書きが良いので星４つ採けたいところ。が、あとがき扱いの解説が最低だったのでマイナス１。誰だ、こんな解説載せたのは…			
	1-85,250-272,292-313p	130P (120分)	3-10	2009/10/19 00:33:35

Caporal ☆☆☆☆	正義の味方が世界を飛び回って腐った世の中を世界中の同志と建て直す、まさに現代版水滸伝。しかしこれはフィクションではなく現実の話である。読んでいて普通に面白い。感動する。 社会にどのように自分の知識が役に立つかを考えるのにいい本であると思う。3つのプログラムに関わらずおすすめできる。			
	P1-129	126P (92分)	86-111	2009/10/13 16:52:56

hana ☆☆☆☆	世界を飛び回り、数々のリーダーと出会い、貧困を解決するため考え、感じ、行動する。 今この過ぎていく1秒を、こうも激しく駆け抜けている人がいるかと思うと、身が引き締まります。 経済は人を救える そう教えてくれる一冊です。			
	全部	297P (330分)	3-10ページ	2009/10/12 22:03:40

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

「社会を変える」を仕事にする

著者名	駒崎弘樹	発行年	2007年
出版社名	英治出版	ページ数	245ページ
値段	1,400円	ISBN	4-862760180
コメント	そんなにゴタイソウな理想や使命感があったわけじゃないんだ。 ベンチャーやってて、ふと行き詰まって、じゃあなんか、金儲けじゃないことやってみっか、みたいな。 ワーキングママたちのために、子供が急病の時に預かってくれるNPO「フローレンス」を立ち上げた駒崎さんの、いきあたりばったり、でも大まじめでアツい浮き沈み人生。 ポコンポコンとキーワードが大きなフォントになってて、そんな工夫も駒崎さんの人生みたいにメリハリがあって◎。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Got's ☆☆☆☆	学生起業の話で、去年決勝戦を見に行った「TRIGGER」というビジネスコンテストを思い出しました。 やはり、意欲をもって起業している人の話を聞いたり、直接見たりすると、心揺さぶれるものですね。自分も少し興味が出たり、出なかったり・・・ でもやはりやる気がどうかなので積極的に生きたいと思わされました。			
	だいたい全部	258P (120分)		2010/02/14 23:40:51
#30 ☆☆	気づいたら大きくなった字だけを読んでた。この書き方は逆に内容が頭に入ってこないと思う。 具体的な内容に入る前に読むのをやめてしまったけど、自分は学生で起業をするということが考えられないので、行動力のある人はとりあえずすごいなとは思った。			
	プロローグ～第一章	54P (30分)		2010/02/14 10:12:25
あ、あめふと２号 ☆☆☆	駒崎さんが社会という大きな相手との戦いに挑み続けていく姿にはとても勇気をもらえました。 そのような姿がコミカルに書かれているのでとても読みやすかったです。			
	全部	245P (180分)		2010/02/08 10:11:14
アメフト4号 ☆☆☆☆	「社会を変える」そんなのできるのか？ とても遠いことのように思えるが意識次第なのかなと思った。 文章が読みやすく面白かった。			
	1-245	245P (240分)		2010/02/05 13:24:07

トム ☆☆☆☆☆	私の父も「社会の役にたつ人間になりなさい」とよく言っていました。でも、どうしたら社会に貢献できるか？私は、ちゃんとした職に就いて働くこと、が社会貢献に繋がるのだろうと漠然と思っていました。 しかし、この本を読んで、駒崎さんのように直接社会に貢献したいと強く思いました。今後、自分も何らかの形で社会起業家やソーシャルベンチャーを支援し、社会に少しでも貢献していけたらと思います。			
	全部	244P (180分)	全部	2009/12/24 00:32:03

ざわ ☆☆☆☆☆	自分とそんなに変わらない年でこんなにも動いている駒崎がすごいと思いました。いや、すごいと言うより、何も動いていない自分が情けないと思うほうが大きかったかもしれません。 「無関心のくせに依存する」という言葉は自分や日本社会の弱点をまさしく表している耳のふさぎたくなるような言葉でした。 ここで耳をふさぐのではなく、自分も小さいことから、動いていきたいと思います。			
	全部	245P (180分)		2009/12/14 13:05:33

とんぺい ☆☆☆☆☆	ショックだった。 僕たちと同じくらいの年齢だった作者が学生のうちに社長なんかしていることに。 そして社会の現状に不満を持って、それを変えるために行動できるなんて。 日々を何となく生きて、政治とか社会のシステムにただ不満を持ってるだけの自分に、行動することの大切さを気づかせてくれる作品でした。			
	全部	245P (240分)	全部	2009/12/07 23:36:01

ソロコフ ☆☆☆☆☆	あったかい気持ちになります。作者の気持ちがストレートに書かれているので、NPOや起業などの世界を知りたかった自分にとってわかりやすかった。根本的な発想、着想は意外と身近なものなのだなあとった。 社会工学科である以上、数字や数式だけでなくこういう社会を変える動きをもっと知りたいと思いました。			
	全部	245P (200分)	全部	2009/11/29 21:52:07

フィクサー ☆☆☆☆☆	日本って国は腐ってるな・・・でもそれなら自分たちも一緒で腐ってるのかもしれない。国がぼくたちを見ていないのと同じで僕らも国を見てこなかったかもしれないから。この本に登場する腹たつ国のお偉い方に腹を立てつつ、「この人、東工大卒じゃないだろうな・・・」とか思いながら読んだ。とりあえず、自分が「無関心のくせに依存する」病気の患者かもってことは意識するようにしたい。			
	全部	245P (200分)	61-96、120-132ページ	2009/11/17 22:20:57

くま ☆☆☆☆	読みやすいのは確かなのだけれども、文字大きくするのは気に食わなかったので星4つです。 内容は面白いと思います。社会企業家とはいったい何なのか、と思って読んでみました。 結局成功しなかったら駄目なんです。いくら社会のためにと思っても結局成功しなかったら、その計画や事業は消滅してしまいます。駒崎氏は、辛いときもあったが、社会起業をなんとか実現しました。 結局は才能か、強い信念があったからでしょう。普通の方々には無理な話です、潔く一般の企業に就職しましょう。でも、でも社会工学科の人々だったら、優秀な方々がそろってますし、社会起業でも考えてみればと思います。「社会を変える」なんてまさに社会工学科のお仕事だと思います。 私は、 「でさ、ＧＳとメリルとＪＰとで迷ってるわけだけど、自分を一番高められるところはどこなんだろう、って考えてるわけさ」 って言ってた男が			

	うらやましかったです。（つまり社会起業には向いてないのかしら）			
	全部	236P (180分)	後半	2009/11/05 00:44:41

puzdog ☆☆☆☆☆	一人の男の奮闘記をリアルタイムで見たような気がした。時間軸による展開によって、読んでいる自分も苦しみ、怒り、悲しみ、そしてそれを乗り越えた喜びを共感できるところにただのhow to本とは違うこの本の素晴らしさがある。 どうでもいいが主人公の母親のツンデレ？が面白かった。			
	236まで	236P (150分)		2009/11/04 12:04:41

つきもち ☆☆☆☆☆	とにかく読書するなら寝たほうがマシだと思っているくらい読書嫌いな僕が夜中４時まで没頭して読んだ本でした。この本で学んだことは 「市や区とか国ってホント自分勝手だな」 ってことです。区長の一言でおぎゃんになった時はむかっときました・・・			
	ぜんぶ	254P (240分)	ぜんぶ	2009/11/03 23:33:44

jessy ☆☆☆☆☆	なんだかおっきなタイトルだなぁって感じだけど、中身は身近に感じた。年が近いからかな、平凡な私たちでも社会に貢献できる。 227ページ「政治家や官僚だけが世の中を変えるのではないのだ。気付いた個人が事業を立ち上げ、社会問題を解決できる時代になっているのだ。」って言葉が印象的。私にもなんかできるかな、だまって政治家批判してるだけじゃだめなんだな。			
	全部	245P (200分)	さっさと読めるから全部読んじゃえ!!	2009/10/24 22:52:20

ＭＩＡ！ ☆☆☆☆☆	社会を変えたい。その一心でNPOを立ち上げたごく普通の学生だった駒崎さん。 様々なプロフェッショナルに支えられながら困難を乗り越えた末、成功した駒崎さんは将来を担う私たちに大きな希望を与えてくれたのではないかと思います。			
	全部	248P (180分)		2009/10/24 00:50:26

ぶるー ☆☆☆☆	丁度私くらいの歳にコマさんはもう大学生で会社をやってて、あと3年後にはフローレンスの社長になる・・・とても身近な話に感じた。 私たちが学んでる学問はどっちかと言えば「お金になる社会に必要な技術」 コマさんが始めたのは「お金になるかわからない社会に必要な施設」 全く違う考え方。やっぱりできたら技術力で社会に貢献したいけど、そんな働き方もありだな、素敵だな。 コマさんの苦悩、実行力、失恋、挫折、仙人、努力・・・成功までの道のりがギュっと詰まった熱くて熱くて重い一冊。			
	大体全部	245P (120分)	母親をフローレンスに誘う場面	2009/10/20 23:18:18

ぷりぷり ☆☆☆☆	代表取締役社長であったITベンチャーを退社して立ち上げたNPO法人フローレンス。病児保育に目をつけたソーシャルベンチャーでありアイデアの独創性を感じた。 また、個人的に銀行の内定を断ってまでも未知の世界に思い切り飛び込む大学生の話がとても印象的でした。			
	169-239	70P (60分)	184-191	2009/10/12 23:50:20

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

グリーン革命 上・下

著者名	トーマス・フリードマン	発行年	2009年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	643ページ
値段	1,900円	ISBN	4-5323144154-5323144
コメント	Hot,Flat,and Crowded. 暑くて、ぺしゃんこで、ギュウギュウ詰め。まるで満員電車みたいな地球を、さあどうする？ みんなで緑をたいせつにね、なんていう学芸会スローガンなんかでは全くないので、侮るなかれ。さすが辣腕ジャーナリスト。その洞察は表面的な事象の裏側をするどく照射し、世界のしくみと行く末がまざまざと見えてきます。上巻第４章「独裁者を満タンにしつづけるのか？」は特に目ウロコでした。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あ、あめふと２号 ☆☆	地球温暖化でこの地球はどんどん変貌を遂げていく、今まで経験したことのない新時代に突入することになるだろう。それを生き抜くための知恵が書いてあるということだったが、とても規模が大きくて、自分に何かできるのか！？という気がしてしまった。			
	1-71	71P (60分)		2010/02/14 14:41:30
TD ☆	トキのように人間が生物種を保護しようとする様子をノアの方舟に例えているのはうまいと思った。しかし、方舟を作る義務と責任が人間にあるという記述にドキッとした。			
	213-232	19P (10分)	213-232	2010/02/13 22:17:07
うろくた ☆☆☆	注：50pをサラッと読んだだけの感想です。 僕は一年生の頃勉強した倫理学で、倫理とは、『皆で協力しなければ解決出来ない問題を解決する唯一の方法』と学んだ。（地球温暖化は、人類皆が協力して立ち向かわなければ解決出来ない） その倫理を、『グリーン』という言葉を用いて合理的な観点から説得力を持たせている。 例えば、アメリカがグリーンの名の下にきちんとガソリン税をかけていたら、今の中東依存の石油状況は発生しなかっただろう、というように、ある程度合理的な観点からのエコ推進を主張している。 個人的には、この本のおかげで人口増大の危険性について認識できたのでよかった。			
	上50p	50P (60分)		2010/01/21 15:13:11
	グリーンを「現実的に」正しく捉えている点で興味深い本といえる。魔女コメントが短すぎて笑った。			

puzdog ☆☆☆	最初は環境問題の列挙がほとんどなのでさっさと８章までいくのがいいかも。社会問題を個別に解決していくのではなく、それらのつながりを捉え、それらを総合的に解決するようなシステムを創出するという考えは、社会工学にとって大切な考えになるだろうと思って非常に共感した。			
	上第八章	50P (100分)	第八章	2009/11/10 23:24:02

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

祝福を受けた不安

著者名	ポール・ホーケン	発行年	2009年
出版社名	バジリコ	ページ数	337ページ
値段	2,400円	ISBN	4-862381408
コメント	帯に「全米ベストセラー環境バイブル！」と謳われています。 またいつもの……と思ってしまいますが、「バイブル」と呼ぶのは、ある意味正解。 脈絡がなくてカオスだから。カオスだけれど啓示に満ちているから。 環境・貧困・差別といった大文字の問題群に立ち向かう、蟻のごときたくさんの具体例。アメリカのレイチェルカーソン、アフリカのナイルパーチ、パタゴニアの先住文明、インドのコカコーラ抵抗運動……などなどなどなど。めくるめく話題の渦。 通読にはとても根性が要るけれど、どの部分を切り取っても、みっしり内容が詰まっておいしくいただけます。濫読好適品。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Mikey ☆	難しいし、回りくどいし、無理でした。 来期は「沈黙の春」とセットでリストに入れるといいと思いました。			
	7-21	14P (20分)	わかんない	2010/02/15 02:56:49
あ、あめふと２号 ☆☆	未来について悲観的なのか楽観的なのかと聞かれてもよく分からない。ただこの本は科学で未来を悲観的だということを証明してくれている。難しいないようなのであまり読み進める事ができなかった。			
	1-53	53P (40分)		2010/02/14 14:36:52
TD ☆	地球を一つの生命とみる仮説はとても興味深い。NGOを免疫システムと呼ぶ言い方は実にうまい。地球にとって我々人間は細胞や生体高分子のようなものなのか、それともウイルスのようにむしばむ存在なのか、判断は分かれると思う。			
	261-274	13P (10分)	261-274	2010/02/13 22:23:04
	ゲンナリ。 以上で感想は終わるのですが、単位の為にもう少し書きましょう。 いやしかし…ゲンナリします。１ページ読み始めるだけで。 我こそ正義！ってなヒロイズムだとか、コレが知性だ！的決め付け、自分たちをわかろうとしない			

ムーディーかまやつ ☆☆☆	（異論を発する）連中に対する見下し。大体引用してくるものとかがジェームズ・ラブロックだとかの環境主義者ご用達学者だったりするので胡散臭いったりゃありゃしない。まぁ別に予想はついた事なのでいまさらそんな文句言っても仕方ないんですけどね。 それにしたって何でこんな訳書が出るのか。おそらくコレはアメリカ人によるアメリカ人のための本であり、「この本を読んで理解を示すことが“市民である条件”なのだ」なんていうアメリカ人たちの自（美）意識を満足させるだけの本だと思うのです。「わたし、環境のためにオーガニックフードしか食べないの」みたいな事を言い出す馬鹿を煽動する本です。なので日本に持ち込んでも社会的意義など皆無であり、いや、皆無であるならまだしも下手に反感を買って健全なNPO活動を阻害しかねないので有害な図書だと思います。 アメリカではこんなのがもてはやされるのかと、異文化を知るという目的のみで読むと良いでしょう。 なんだか濫読向けという宣伝ですので、次回に残す為に平均４を狙って３点あげます。不本意ですが（笑）			
	1-34,52-61,116-124,261-271	62P (100分)	なし	2010/01/12 02:11:56

march ☆☆☆☆☆	時間がなくて序章しか読んでないのですが、もっと読みたいと思いました。内容がごちゃ混ぜで、あるようなないような本ですが、いろんな可能性に満ちた本だと思います。この本を読んで、その上で、改めて環境問題について考えてみるとかなりアクティブになれると思います。			
	1-21	21P (30分)	序章1-21	2009/12/19 15:03:28

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

地球のハローワーク

著者名	ナショナル・ジオグラフィック	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	333ページ
値段	1,900円	ISBN	4-863130722
コメント	表紙の写真に一目惚れ。 人生の豊かさとか、地球の広さとか、めんどーなコリクツなんて、どうでもいい。パラパラめくって運良く「一目惚れ」に出会えたらこの本はあなたのものです。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
NIKI ☆☆☆☆	236ページの女の子の頭の大きさに驚きました。美少女コンテストなのに…顔が見たいです。なんか世の中には本当に色んな仕事があるんだなぁって思いました。国ごとに文化とか発展の違いが出ているのが面白かったです。			
	全部	333P (60分)	236	2010/02/15 01:09:55
Got's ☆☆☆	人間科学概論の林達雄様の授業で選んだ３冊のうちの１冊。 仕事。それは一概には定義できないものなんだなぁとしみじみ… アフリカやアジアの写真を見た直後にヨーロッパの写真を見ると、これが同じ時代に同じ惑星のもとで行われていると思うと、不公平だなぁと思ったりもします。 同じ地域でも時代によって仕事の雰囲気が全く違ったりしていておもしろいと思った。			
	全て	333P (30分)		2010/02/14 23:03:52
黒鳥 ☆☆☆☆	さすが第一線の写真家たち！写真がすごいっ！ まぁ表紙からびっくりでよね（笑 29ページとかすごくないですかぁ？ でも前の人のコメントにもあったけど怖い本だなと私も感じました。考えさせられます。 いい本なのではないでしょうか ちょっと本のサイズに疑問・・・ もっと大きくてもいい気がする。迫力がない！！ そこがとても残念でした。			
	1-334	335P (60分)	114 310 327	2010/02/13 00:02:42

iwatobi-penguin ☆☆☆☆☆	題名からして明るい本かと思っていたらけっこうシリアスで怖かったです。ちいさな子供まで働いてて・・・・。			
	1-140	140P (30分)		2010/02/06 22:19:30
trick ☆☆☆☆	内容はとてもいい。 写真も、芸術作品らしくも報道写真らしくもなりすぎておらず事実を淡々と囁く感じ。一定のメッセージ性をもった写真集としての完成度が高く、好感が持てます。 ただこのタイトルはない。日本語版のタイトル考えた人ちょっとどうかと思います。ハローワークってお前。写真集の内容と一時の流行を追ったタイトルのギャップにもある意味感じるところがあるかも。 そしてこんな切り口で写真集を見ている自分の顔を写真集を読んだ後に鏡で見る。この瞬間が一番考えさせられるタイミングだと思う			
	all	333P (55分)		2010/01/27 02:22:18
えむぼま ☆☆☆☆☆	一つ一つの写真に魅了され続ける写真集。 世界には自分の知らない仕事があり、自分の想像している仕事とかけ離れている仕事に命をかけている人を見て、自分の知見の狭さを感じさせられた。			
	全部	333P (40分)	193	2010/01/19 00:08:40
トム ☆☆☆☆	こんなにも写真集をじっくりと見たのは初めてだと思う。 一枚一枚の写真から世界中の人々の必死に生きている様子が伝わってきた。写真ってすばらしい。			
	全部	333P (90分)	114, 115, 260, 261	2010/01/11 16:08:24
gpx ☆☆	114ページの赤ん坊と、周りの大人の慣れている感がひどいなと思った。 その隣のページの拳銃を作る少年たちの目が印象に残った。 今、大学に通っているということは、どういうことなのかもう一度問い直してみたくなった。			
	全部	333P (60分)	114,115	2009/12/22 03:52:50
ぴよ彦 ☆☆☆☆	生きるため、金のため、夢を叶えるため…人々が働く理由は様々だ。 皆が皆、望んだ仕事に就けるわけではない。 半ば強制されて家業を継いだ人もいるだろう。 選り好みできるほど仕事がなかったという人もいるだろう。 しかし例えそうであったとしても、この写真集の人々は皆、力強く、美しい。			
	全部	333P (333分)	106-1047, 306-307	2009/12/15 05:06:56
ソロコフ ☆☆☆☆☆	『「社会を変える」を仕事にする』をこの前読み、今『ﾁｪﾝｼﾞﾒｰｶｰ』を読んでいます。この二冊はどちらも社会を変えていく試みであるけれど、この『地球のハローワーク』に映し出されている現状のほんの一部しか解決していないのだろう。 文章で得た知識が写真という視覚的にわかる形で認識することでイメージがわきやすくなると思った。			
	全部	333P (60分)		2009/12/06 23:01:05
ぷりぷり ☆☆☆☆	世界中の仕事が紹介されておりほとんど見たこともない仕事だったがそれぞれに美しさを感じた。 人間が生きるために仕事に励んでいる姿はたくましい。 特に331ページの魚を水中銃を使って仕留めている写真には生きるという強い意志を感じた。			
	全部	335P (40分)	331	2009/11/30 15:36:09

ＭＩＡ！ ☆☆☆☆	9割以上私の知らない仕事でした。 仕事といったらたいてい大人がするもの。という自分の常識の狭さを痛感させられました。 186ページの有害物質に囲まれながら、防護服を身にまとわず働く幼い子供たちを見たとき、産業革命以降の世界って幸せなんだろうかと思ってしまいました。 科学技術の発展、一部の人間のためだけの便利な生活は幸せと言えるのか。 ほんの一部の人間がその他大勢の幸せを奪ってしまっている気がします。 しかし、今こうしてぬるま湯に浸かってぬくぬくと大学に通っている私たちは間違いなくその一部の人間に含まれている。 こういうことを考えるといつもどうすれば良いのか分からなくなります。 私たちのやるべきことって何だろう。の答えはなかなか見つかりません。			
	1-333	333P (70分)	186	2009/11/11 12:17:56

リリー・アリゾナ ☆☆☆☆	私にとっての仕事とは自己実現のための手段だが、この本に載っている多くの写真が見せてくれたものは生きる手段としての仕事だった。 一番印象に残ったのは紡績工場で働く少女の写真だ。 彼女の目からは将来の展望も人間らしさも感じられない。人格を必要としない社会の歯車として働かされる少女の姿にとても心が痛んだ。理想論かもしれないが、仕事はもっと生きる喜びを感じられるような物であって欲しい。			
	全部	333P (60分)		2009/11/01 15:23:03

@ ☆☆☆☆	日本では、子供～青年期は学校に行って勉強して、大人になったらいい会社(その定義はわからないが)で働く…というのが普通である、というのが一般的な見方。 けれども、世界には、この写真集にあるように、年齢関係なく、肉体労働等、さまざまな仕事をしている人たちがいる。 もちろん、肉体労働はつらいし、子供が危険な仕事に就くのはかわいそうだとは思う。 しかし、日本に住む私たちにも、仕事をしていて、あるいは、勉強をしている今でさえ、辛いことだってある。 それは、このような肉体労働をしている人たちと同じ天秤で比べられるものではないのではないだろうか、人の幸・不幸は相対論ではないのではないか…ととりとめもないことを考えさせられました。			
	全部	333P (60分)	114-115ページ	2009/10/27 20:59:14

ざわ ☆☆☆☆	写真ももちろんですが、それぞれの章の始まりの文章も感慨深いです。 物もらいをさせられる赤ん坊に最も衝撃を受けました。アフリカのページで全くにこやかとせず、まっすぐ正面を見ている人の姿に心苦しくなり「少しでもいいから笑って」と思いました。 スケールの大きい本だと思います。			
	全部	333P (90分)		2009/10/27 07:47:30

ぶるー ☆☆☆☆☆	1枚1枚の写真を見ているだけならキレイな写真集。 文章を読んでから見ると世界の仕事の事情が見えてくる。 それぞれの地域の人々の仕事に対する思い…誇り、生きるため、お金のためじゃない…など、写真を通して伝わってくる。 一番印象的だったのはイエメンの少年に予防接種をする看護師さんの写真。宗教の関係上あまり写真を真直ぐ見ないイスラム圏の人だが、使命感に燃える未来への希望を持った力強い眼差しが印象的だった。			
	全部	333P (150分)	中東のドクターの写真	2009/10/20 21:33:06

march ☆☆☆☆	人々が働く姿。そこから現在の世界の実情が見え隠れしている。その仕事に誇りを持って働いている人、貧困のため命を削ってまで働かさせられる人。現代社会を視覚的に、多面的に見られる本だと思います。			
	1-335	335P (40分)	296	2009/10/20 09:48:49

jessy ☆☆☆☆☆	パリのファッションモデルから、地雷を処理する子供まで、世界中のあらゆる職の写真が載っている。貧しい地域では、物心ついてない赤ちゃんの時からお金を稼ぐ。いや、稼がされる。自分たちは幸せすぎるのだな、、、			
	全て	333P (50分)		2009/10/19 02:07:22

くま ☆☆☆☆	幼い子供が働いてる写真なんか見ると、なんとも言いがたい気持ちになる。実際に見たら、私たちは何を思うだろうか。 写真にこんなにも魅了されたのは久しぶりだ。			
	全部	333P (60分)	どこでも	2009/10/19 00:29:21

ＴＡＫＥ2ＧＵ ☆☆☆☆	国は違っても、多くの写真に同じ印象を受けた 生きるために働くということの美しさが表れている まるで今にも動き出しそうな写真を撮るプロの写真家に感服			
	1-333	333P (30分)	どこでもOK	2009/10/17 08:04:00

hana ☆☆☆☆☆	美しい。それはきっと、どの写真にも人の命があふれているから。 見つめれば見つめるほど、いろんなものが見えてきます。 とくに衝撃的だったのは、都市の中の歩道橋に赤ちゃんが裸で横たえられ、物乞いをさせられている姿(P114)。これも働くということ… みんな必死で働いています。生きています。自分は？			
	全部	333P (90分)	114-115ページ	2009/10/13 22:22:01

ＴＯＰへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

ハチはなぜ大量死したのか

著者名	ローワン・ジェイコブセン	発行年	2009年
出版社名	文藝春秋	ページ数	319ページ
値段	1,905円	ISBN	4-163710303
コメント	働き蜂の過労死――いえ、昆虫の世界のお話です。昆虫の世界のお話だけれど、人の世界に深く深く関わっています。 ハチがいなくなるとハチミツが食べられなくなる……だけならまだいいけれど、リンゴも梨もアーモンドも、ハチが受粉を媒介しているニンゲンの食べ物が全部絶滅してしまいます。 そうなったら木村さん（『奇跡のリンゴ』）も大困りですよね。でも実際、2007年には北半球のミツバチの４分の１が消えてしまったんです。 事実の検証を積み重ねつつ、じわりじわりと核心に迫ってゆくサイエンスストーリーの王道。たっぷり蜜のつまった濃厚な内容です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ＭＩＡ！ ☆☆☆☆	実はハチが大嫌いなのですが… 自然界の植物存続の危機、我々人間の日常生活にまでハチの大量死が関わってくることを知り、大きな問題であると感じた。 植物と昆虫の関係、自然界の成り立ちについて考えさせられた。			
	1-50、96-98、241-246	57P (70分)		2010/02/14 23:26:30
あ、あめふと２号 ☆☆☆☆	ハチに人はここまで支えられているの！？と思わされた。 結局なぜハチが死んでいくのかは分からないんですよね？			
	1-44	44P (30分)		2010/02/14 14:23:50
TD ☆☆☆☆	CCDの原因を探るために科学者たちは奮闘するが、マスコミや世間はどこかミステリー小説を楽しむような節があり、なんとなく「シカゴ」という映画で殺人が市民の娯楽になるというエピソードを思い浮かべた。			
	91－113	22P (20分)	91－113	2010/02/13 22:10:56
肉	読むところを間違えたようです、、、 蜂がいなくなった理由が知りたかったけど、最初の蜂とか養蜂場についての説明をずっと読んでいて途中で飽きてしまった。途中をすっ飛ばして理由の箇所を読もうかとも思ったけど、その時にはもう興味は失せていた。			

☆☆	序章読んで、すぐ後半を読めば、楽しかったのかもしれない。			
	1-76, 91-107	93P (90分)		2010/02/07 10:43:56

trick ☆	嫌いなタイプの本。 蜂がいないと人間は生きていけませんっていう語り口がそもそも胡散臭すぎる。そんなこと言い出したらきり無いだろ…どっかでバランスが崩れると何かが代替してすこしずれた均衡が出来上がるんじゃないか？ 虫の話はやっぱり虫をちまちま観察して喜ぶタイプの文章が最適だと実感。序盤しか読んでないけどとてつもなく回りくどい。			
	1-40	40P (35分)		2010/01/27 02:49:15

アメフト4号 ☆☆	北半球の1/4のハチが消えた。という文章に興味を持って読んでみたが、途中で飽きていしまった。			
	1-30	30P (20分)		2010/01/23 22:06:55

りょへ ☆☆	うーん、もっと核心を説明してほしい(後半でするんでしょうけど)のになかなか焦らしてくれるなぁーと思って読んでましたが、やっぱり途中で集中力がプッツンしてしまい、もう読む気がおきません。 生物好きには面白いのかも。			
	1-33	33P (30分)	わからない	2010/01/22 00:00:35

アメフト３号 ☆☆☆☆	よくありそうな、製薬会社とその影響を受ける人々の抗争が書かれていた。会社の実験結果では、影響があるほど薬品残量は無いというが、実際の養蜂家の現場では、コロニーの数が激減。 イミダクロプリドという化学物質に脅威がわかる。			
	114 - 125	12P (20分)	特になし	2010/01/20 11:13:53

ＴＡＫＥ2ＧＵ ☆☆☆	ハチが大量死したというのはテレビかなんかで聞いたことがあったが、北半球のハチの４分の１も消えたとは知らなかった 機会があったら今度はじっくり最後まで読んでみたい			
	1-116	116P (60分)		2010/01/19 12:53:42

日吉本町四丁目南 ☆☆	最初の方で、大量死の犯人は誰かを探っているところは良かったが、結論はいまいちだった気がする。ミツバチヘギイタダニだとか、ノゼマ病胞子虫だとか農薬だとかがやたらと出てくるが、結局それらが一斉に押し寄せてくるから悪いということしかわからなかった。インパクト不足です。 でも、ロシア蜂のくだりは明快でわかりやすかったかな。			
	全部？	319P (360分)		2010/01/19 00:41:42

くらしく ☆☆	蜂が続々死んで農業がヤバい、去年ニュース番組でよくそんな話を聞きました。 きっとこの本に答えがあるに違いない、と思って読んでみても答えは遠そう。各章頭を読んで、ああ、この章にもないな、と。 結局いろんな原因を模索する章を最後まで読み切っても何も書いてなくてイライラしてしまって読むのをやめてしまいました。 きっと最後の方に書いてあるのでしょう、今ではあまり蜂に興味を持ってもいません。			
	1-9,14,77-78,91-113	35P (30分)		2010/01/12 15:16:18

	養蜂業は周囲の環境に適応する術という点ではとても難しく感じた。ある変異が起きた時、その原因だけを追求して対策を施すことは、ビジネス化の一種であって、自然の摂理にまで手を加えればかえって状況が悪くなってしまうこともあるのだと、この本から学んだ。			

blue ☆☆☆☆	なぜ、ハチは大量死したのか。決してCCDだけではない。ストレスが促進する衰退現象SAD、自己免疫欠乏症BADがかさねっているのが有力な原因とある。当然だと思う。大量のコーンシロップ摂取、殺虫剤抗生剤、寄生虫、外来性の病原菌すべてが振りかかれば、いくら良く働き耐性も強い蜜蜂だって、疲れるに決まっている。 それにしても、アーモンド市場では養蜂は売り手市場であったはずなのに、いつの間にか逆選択が生じているのは何とも皮肉な話である。ハチだけでなく多くの生命体が我々の経済システムに組み込まれてしまった挙句、消滅の危機にさらされる世界になっていくとき、僕たちはどこに生命の情熱と歓喜を見いだせるのでしょうか。			
	全部	319P (280分)	7,8章あたり	2010/01/06 23:34:49

だいすけもん ☆☆☆	翻訳された結果の日本語ってやっぱり所々表現に違和感を感じるなと。原本をネイティブが読んで受け取るはずの意味とはやっぱ違うような気がする。内容としては、ぶっちゃけだるかったので、挫折した。乙。			
	1-46	46P (60分)		2009/12/15 09:12:29

ぶるー ☆☆☆☆	一番始めの章しか読みませんでしたが、なんだかとても面白そう！ みんなのコメントを読むと、こっからハチがいなくなった事実について検証がはじまるのかな。 時間があったらもう一回借りて、続きを読みたい、と思う本でした。			
	始め-p13	13P (30分)	最初の章	2009/12/15 02:10:50

ぷりぷり ☆☆☆☆☆	知るべきこと、考えるべきことがたくさん詰まっていておもしろかった。 人間は人間中心に考えて自然をコントロールした結果、多くのものがこの世から姿を消した。 読み終わった後、未来への恐怖感を感じた。			
	8-279	272P (150分)	240-258	2009/11/30 15:52:41

えむぼま ☆☆	最初から読み始めたのだが、じれったすぎて飛ばし飛ばし読んでしまった。 私たちの生活がミツバチという身近な生物によって支えられていて、ミツバチを失うことが生活に予想以上の被害を与えることに驚いた。			
	8-33,77-113,125-163,240-276	139P (200分)	240-	2009/11/18 22:56:09

アルフ ☆☆☆☆☆	最初はハチの大量死の原因探し。そこもミステリーものみたいでおもしろい。でもすっきり解決とはいかないのはノンフィクション故か。 最後は自然界全体の動的平衡の話。もうすでにもともとの治癒力では回復できないほど人間は自然を壊してしまってるのではないかと思うと、恐ろしくなります。			
	全部	319P (180分)	182-239	2009/11/17 00:06:19

Caporal ☆☆☆☆	ハチの大量死の原因もそうだが、ハチの生態がとても興味深いものだった。また左側のページに書かれる注釈の訳がみごと。と違う観点でコメントしてみました。			
	全部	359P (270分)	第十章	2009/11/10 17:26:05

march ☆☆☆	最初の前置きであきちゃった・・・。前置きが小説っぽくて、特に続きが気にならなかった。			
	1-33	33P (20分)	なし	2009/11/06 17:48:48

iwatobi-penguin	蜂という意外と知られていない頑張り屋さんの存在の重要性を改めて実感させられた良作です。			

☆☆☆☆☆	1-230	230P (200分)		2009/11/04 17:29:50

くま ☆☆☆	前置きが長い。最初のほうは原因について推理小説チックに書かれてる。早く犯人が知りたい方は後半の章から読みましょう(笑) 時間切れだったんで、また借りるかもしれません。（後半のおいしいとこ読んでない）			
	8-113ページ	105P (240分)		2009/10/15 22:16:02

puzdog ☆☆☆☆	wikiにも出ているのに、今まで知らなかった恐ろしい真実。科学技術の幅寄せがこんなところにまで及んでいるというのは衝撃的だった。			
	2章除く1～6章	100P (100分)		2009/10/14 23:33:07

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

生物と無生物のあいだ

著者名	福岡 伸一	発行年	2007年
出版社名	講談社現代新書	ページ数	260ページ
値段	740円	ISBN	978-4061498914
コメント	ダイナミック・イクイリブリアム＝動的平衡。この着眼から社会というものをとらえてほしくて、リストに加えました。分子レベルで見た私たち生命体は、外界から隔てられた個物ではなく、たまたま密度が高いだけの分子のゆるい淀みに過ぎず、しかも絶えず高速で入れ替わっているそうな。生きているとは、いつも中身を入れ替え続けているということ。 「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」 そうなのか！ 興奮しました。これは生命体の理解だけでなく、社会や組織といった「人のあつまり」を理解するときにも使える、と。そんなふうに生命体の話としてでなく、社会や国家に応用できないかと虎視眈々たるスタンスで臨むと、社会工学的にも実り多いかと思います。第９章だけでもぜひ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆	タイトルと序章とみんなのコメントをみて何となくわかった気になりました。手に取っておいてなんだけど、あんまりそそられるテーマじゃなかったみたいです。			
	1-8ページ	8P (5分)		2010/02/15 04:02:24
Mikey ☆☆☆☆☆	専門的な話だけど、とてもわかりやすくてよかった。 生命や生物の話だと、どうしても宗教とかが絡んできてイヤな感じがするけれど、この本はそういうことがなくてよかった。			
	全部	260P (200分)	最初の方と最後の方	2010/02/14 18:57:14
#30 ☆☆☆☆	確かに「生物」と「無生物」の違いとは何だろうか。明確に定義することは難しい。 ということで、これから時間があるときにゆっくり読むことにする。			
	3-8	5P (5分)		2010/02/14 14:36:59
つきもち ☆☆☆	プロローグだけ読んだが、なんか難しそう・・・生物、化学が苦手だったから６類に入ったわけだし・・・ 遺伝子組み換えなど技術が進歩したことでいろいろなことができるようになったが、それが果たしていいことなのかを考えさせられる本である気がする。			
	1-8	8P (10分)		2010/02/12 03:47:16

march ☆☆☆☆	もともとこのテーマのことがすきで、ほんをチョイスしました。ですが、DNAのい発見に関わる黒い部分を読んでしまい、やはり科学にもこういう側面があるんだなと認識しました。			
	100-133	34P (30分)	130ページ	2010/01/29 16:05:18

ムーディーかまやつ ☆☆☆☆☆	ポスドクの苦しさを描いたエッセイです。社工生にはあまり縁がない話かもしれないですけどね。たぶん大学での生き方を分かればそれでいいので、生物学が分からなくても何の問題もないのでしょうが…言うほど専門的でも無いと思いますよ？僕も生物の授業なんて受けたことないですけど… せっかく理系総合大学にいるんだし。１類の子と事象の地平と情報の保存について喧嘩したり、２類と楽しくレンジで製鉄の話をしたり、ベンチュリー効果のホントの所を話し合ったり、JPEGの理屈を聞いたり…そういうことをするための基礎教養を身につける努力はしてしかるべきだと思うし、そのために大学という環境があるような気がします。 そしてこの本は７類の子と楽しくおしゃべりするための基礎力を確実にアップさせてくれるでしょう。難しくて分からん、という人はニュートンでもムーでも（違）何でもいいから科学誌をペラペラ眺めていましょう。そしてそのうち楽しいキャンパスライフがやってきます。度が過ぎると留年しちゃうんですけどね。 実は情景描写とかが鼻についてこの本あまり好きじゃないけど、読んどけばいい本ではあるので点数上げに貢献したいと思います。			
	全部	260P (200分)	はて…？	2010/01/19 11:54:34

harry ☆☆	専門的すぎて、つまみ読みじゃ分らなかった。 とにかく、生命の流れにはあらがうことはできない。それだけはわかった。 ただタイトルとの関連性が読み取れるほどは読み込めなかった。			
	1〜8、274〜285	20P (15分)		2010/01/13 22:43:05

@ ☆☆☆	予想以上に生物の専門的なことが書かれていました。 最初の方は、生物の知識が少ししかなくても、わかりやすく書かれていたので楽しめました。 9章以上は、たんぱく質とか、ほんとに話が専門的になってしまい(比喩も追いついてなかったような…)、難しくて、途中で挫折してしまいました… ただ、前半は面白いです。動的平衡のところは比喩もわかりやすく、なるほど！という感じでした。			
	最初〜13章の途中、第15章の最後、エピローグ	245P (240分)	第9章	2009/12/31 21:10:41

iwatobi-penguin ☆☆☆	DNAというこれからの科学の中心になりそうな話題をけっこう深くまで触れています。物理、科学選択者の僕には正直厳しいものがありました。ひまなときにもう一度読んでみます。			
	1-105	105P (80分)		2009/12/16 07:56:28

ねりな ☆☆☆☆☆	テーマは科学のど真ん中なのに、語り口がジェントルというかダンディというかセクシィというかハードボイルドというか･･･なので軽快に読めます。とても面白いです。 これ読んだら、自分が生物であることにワクワクしてしまいますよ！			
	3-105,131-192,248-285	203P (180分)		2009/12/14 22:37:39

ぴよ彦 ☆☆☆☆	私は高校時代、生物が一番苦手で嫌いだったがそれでも問題なく読める。むしろ生物のもつ、単純でありながらも強靭なシステムに魅了された。生物を生物たらしめるのは"流れ"という考えも非常に興味深い。一年前の自分の体と現在の自分の体はほとんど別物、というは不思議な感じだ。			

	3-63, 135-186	113P (80分)	157-163	2009/11/24 09:50:43

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	ＤＮＡやウイルスの話はもちろん面白いですが、ところどころに研究者の心得のような文章が入っているところがとても良かったです。立ち読みポイントは（たぶん）著者が訴えている動的平衡がよくわかるところです。著者が細胞膜と小胞体について一番にのみ許される栄光を、ライバルと競って研究しているシーンは私もドキドキしました。			
	1〜237	237P (200分)	152〜	2009/11/05 00:11:38

トム ☆☆☆	昔から、生物は結構勉強していたので、知っていることも多かった。 しかし、DNA発見の歴史の裏側などは面白かった。			
	1-81	80P (60分)		2009/11/04 01:26:29

アルフ ☆☆☆☆	興味深い話題が目白押しでおもしろかった。 自分の体のあらゆる部分が常に壊され作り直されているなんて、改めて考えてみるとすごい不思議。			
	全部	260P (110分)	152-186	2009/11/03 23:52:09

BLUE BLOOD ☆☆☆	生命とは何か。 それは自己複製を行うシステムである。 今、これに目がとまった人はぜひ読んでみてください。			
	1-117	117P (60分)	100-116	2009/10/20 09:39:21

ＴＡＫＥ2ＧＵ ☆☆☆☆	今となっては常識となっている、ＤＮＡ＝遺伝子ということが証明されるまでには大変な苦労があったということを初めて知った 帯には『こんなおもしろい本を、途中でやめるなど、誰ができよう』と書いてあったが、俺はどこでも読み止められる濫読しやすい本だと思った			
	29-76,187-220	80P (120分)	29-	2009/10/17 08:07:45

アメフト4号 ☆☆☆	普段あまり読書をしないが、自分の専攻してる内容だったこともありとても読みやすかった。DNA研究の先駆者たちの功績など初めて知ることもあった。			
	1-286	286P (90分)		2009/10/12 19:34:57

Caporal ☆☆☆	生きているとはどういうことなのか？その問いに明確な答えをだすのは考えれば考えるほど難しい。この本は、それに対する一つの答えを打ち出している。生きているということがどれだけ儚くも強い状態であるかということを再認識し、感動してほしい。作者やその周りの人間のいわゆる「ポスドク」にも焦点を当てているため、ポスドクを考えている人が読んでみるのもいいかもしれない。			
	P1-8,83-99,134-220	112P (40分)	P160-164	2009/10/11 21:50:44

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

動的平衡

著者名	福岡伸一	発行年	2009年
出版社名	木楽舎	ページ数	240ページ
値段	1,524円	ISBN	978-4863240124
コメント	『生物と無生物の間』が新事実満載の気合いの入ったパワフル講義とするならば、こちらは同じ事実を踏まえつつも、ぐっと気さくな炉端トーク。だから、『生物と無生物の間』のイントロダクションとしても、逆に余韻を楽しむかたちでも行けます。 生命は分子の淀み。なんてユニークで魅力的な世界観。クセになりそう。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント 読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Mikey ☆☆☆	「生物と～」を読んで、この人の本に興味を持ったので借りました。 「生物と～」より読みやすいけど、「生物と～」の方が説得力がある気がします。 この人の本をもっと読んでみたいと思いました。			
	全部	240P (200分)		2010/02/14 21:09:04
gpx ☆☆☆☆	ES細胞は役に立つのかということを知りたくて読みました。 結論からいったらまだ無理みたいです。 クローン技術にしても羊のドリーは３００個近くの卵から唯一成功したものだし、突然しんでしまったらしいです。			
	163-166	4P (10分)	163-166	2010/02/13 08:23:34
TD ☆☆☆☆☆	高校の時にウイルスの話を聞いてからずっと「生命の定義って何だろう」と考えていたのだが、その答えに一歩だけ近づいたような気がした。生きてるって何？と難しく考えてしまう人に、もっともシンプルな答えを導いてくれる一冊だと思う。			
	0-240	240P (160分)	最後の章	2010/02/01 22:22:00
りょへ ☆☆☆☆	家に置いてあったので読んでみた。 第一印象を単刀直入に言うとあぁーなんて話すのが達者な人なんだろーという感じでした。読者の中には理系が多いと思われるが、この平易でリズミカルにしゃべる口調は文系にも十分理解ができるように話されているのではないかと思う。 鵜呑みにすると騙されるんじゃないかとちょっとは思った。			

	いろいろ	150P (180分)		2010/01/27 02:20:27

くま ☆☆☆☆	読みやすいです。濫読向けの本かと思います。 ダイエットのとこは興味深くよみました。一度に食べるより何回かに分けて食べたほうが太りにくいとか、スローフードとか。 肥満に悩むことは今のところないけれども、将来体重気になりだしたら参考にしようと。 あと、コラーゲンは笑い話ですね。元が悪けりゃ何食べても代わらんって言うのに。整形したほうが美人とかにはなれでしょう。 ･･･なんて言うと、女性に怒られるかも知れないけど、東工大なら大丈夫だろう、きっと。 ↑あまりにも内容がないようなので、真面目に書いときます。 「動的平衡」あとがきにも触れられてるように、これがこの本のタイトルでもあり、すべての現象の核心を解くキーワードになっている。私たちは絶えず何かを失い、何かを作り直している、のである。 ここで思ったのが、「すべての現象の核心を解く」って部分です。私が現在学んでる経済も「動的平衡」な状態であるのか。均衡概念と似ているんじゃないか、それとの違いは何だろうか、など疑問がわいてきました。 結局、コメントまとまりませんでした。			
	12-166	155P (180分)	端書、第2章、第3章	2009/12/04 16:20:07

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	立ち読みポイントにもした、はしがきの青い薔薇のストーリーは、単純な話ですが的を射ていていい感じです。 「生物と無生物のあいだ」と続けて読みました。今や人間を形作っている部品は人間の手でつくれるようになったが、それをいかに組み合わせても生命は宿らないというお話、２冊を読んで多少は理解できたかなと思います。生命は常に時間の流れにのっていないと生きていけない。そのような人間であり続けたいです。			
	2～23,117～166	72P (60分)	はしがき	2009/11/10 12:24:46

blue ☆☆☆☆☆	平易な文章で一つ一つのテーマがダイレクトに伝わって面白かった。コラーゲンやES細胞、ヒトゲノムまで最近までのホットな話題が盛りだくさん、かつそれぞれの真相については目からうろこである。また、一貫して生命の本来持っている動的な平衡に帰属して考えさせてくれるところはすばらしい。本校の本川教授の言っていたこととも相当リンクしているなと感じる。			
	11-251	240P (160分)	62-90	2009/10/13 12:29:40

TOPへ